

# 羽ばたく女性研究者

Researcher feminam altum volantes

vol.2

いしがみ たかこ  
石神 孝子 さん

山梨県 観光文化部 文化振興・文化財課 埋蔵文化財担当 課長補佐

土の中に埋もれた昔の人々の営みを現代によみがえらせて過去と現在を結び付け、未来につなげる。こんな分野で研究している女性もいます。

気力も体力も必要だけど、なによりも「好き」という気持ちが大切ということを知かせてくれた女性。文系でも理系でもないマルチな才能の持ち主でした。

石神さんは、旧姓を使用しているそうです。

はい。石神は旧姓です！結婚して数年は配偶者の姓でしたが、その後旧姓使用の届出をし、石神に戻しました。旧姓のままならば、例えば論文を書いて発表しても実績が続くことにもなるので、配偶者も理解してくれています。

現在は県の本庁の課長補佐に在籍しておりデスクワークが主ですが、これまでどんなお仕事をされてきたのでしょうか？

平成5年4月に山梨県に文化財主事として採用され、山梨県埋蔵文化財センターで県内各地の遺跡の発掘調査に携わりました。その後、平成20年4月に県立考古博物館の学芸員として配属され、今度は発掘された考古資料を展示や体験活動をとおして普及、活用するという業務についていました。

その後、平成24年から県庁の（当時）学術文化財課文化財保護担当に異動、平成27年4月に埋蔵文化財センターに戻り、平成30年4月から再び県の本庁に配属され、今年度から文化振興・文化財課 埋蔵文化財担当の課長補佐を務めています。

発掘現場で実際に土を掘っていたんですね……。石神さんがこの道に進みたいと思いはじめたのはいつ頃ですか？

昔から社会の勉強というか歴史が好きで興味があり、将来は博物館学芸員として働きたいという夢を持っていました。ただ、その時は遺跡の発掘という仕事があることは知らず、博物館学芸員になるためにはその資格取得課程がある歴史系の学部に行かなければならなかったため、大学は文系の大学、学部に進みました。そこでカリキュラムの中に発掘調査があり、そこからそのまま考古学の道に進み、

現在に至っています。ですので、実際に平成20年に学芸員となったときには「夢が叶った！」と思いました。

夢が叶ったなんて素敵ですね。自分の「好き」を「仕事」にできるということは素晴らしいことだと思いますのでうらやましいのですが、石神さんにとって考古学のどんなところがおもしろい、またはやってよかったと感じますか？

確かに「好き」を「仕事」にできることは有難いことだと思っています。しかし、「仕事」になった途端に苦しくなることもありますし、「好き」ばかりで仕事もできません。すべてひっくるめて好きだからやっていると思います。そう考えると、自分の話や展示から、皆さんが面白かった、知らなかった、と言ってもらえることは嬉しいです。自分が興味があって知りたくて学んでいることなので、そういう反応をいただけることや甲斐というか、やってよかったな～と思います。

特に博物館学芸員は自分の研究を発表する場でもあるので、平成22年に県立考古博物館で開催した特別展『発掘された女性の系譜』は反響が大きく、今でも話題に上ることがあるのは嬉しく思います。土器とか石器とか、そんなイメージの考古学から見た「女性の

第28回特別展  
発掘された女性の系譜  
——女性・子ども・家族の造形——

2010年 会期中無休  
10月9日(土)~11月28日(日)

時 間 ●午前9時~午後5時  
(入館は午後4時30分まで)

主 催 ●山梨県立考古博物館  
文化庁(埋蔵文化財等公開促進事業)

観覧料 ●一般小学生 400円(400円)  
小・中・高校生 300円(240円)  
(1) 内120名以上の団体料金

山梨県立考古博物館  
〒400-1508 山梨県甲府市下宿町923  
TEL 055) 266-3881  
URL /www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/



石神さんは結婚・出産・子育てというライフイベントを経て現在に至っているわけですが・・・

私は当時の埋蔵文化財センターで、産休・育休を取得した初めての職員でした。周りは男性も多く、もちろん「母親」という立場の職員も初めてだったので時には厳しいこともありましたが、当時の上司など、配偶者も仕事をしている男性職員も多く、育休明けの時短勤務などにも理解があったので助かったこともたくさんありました。今は自分が当時の上司の立場にいるわけですが、自分が後輩たちにどう対応したらいい

のかを考えると、あの時いい経験をさせてもらったと思っています。

のかを考えると、あの時いい経験をさせてもらったと思っています。

のかを考えると、あの時いい経験をさせてもらったと思っています。

ワークもライフも良いバランスを取って走ってきた石神さん、ロールモデルとして、後輩の女の子たちに励ましの一言をください。

私は今まで考古学を本当に楽しんで、面白いと思って、好きで研究し、仕事として向き合ってきましたし、今もそうありたいと思っています。これからどんな道を選択するにせよ、自分が楽しいと思える人生を送って欲しいです。

文系の男性社会というイメージが強いのですが、そうでもないのでしょうか？

もちろん、専門は文系となりますが、考古学ではいろいろな技術が必要になります。発掘現場では調査範囲の測量もしなければならぬので、三角関数を使える計算機も使いました。私は数学が苦手なので苦労しました(笑)。もちろん「体力」は必須ですし、免許を取ってユンボ(パワーショベル)も動かしました。このあたりは男性も女性も、文系も理系も関係ないかもしれません。

ただ、男女比は7:3ぐらいでしょうか。考古学に進みたいとなったとき、親にも「女性だから」というよりも「将来それで食べていけるのか」というところで反対されたこともありました(笑)。

